



紅華の森による、移乗用リフト導入と業務改善の取り組み報告

2026年2月25日（水）

【事業所名】 社会福祉法人祥永会 地域密着型介護老人福祉施設 紅華の森

【報告者名】 前川里子



01 事業所概要

02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01 事業所概要

地域密着型介護老人福祉施設 紅華の森

- 法人名 社会福祉法人祥永会
- 所在地 沖縄県中頭郡読谷村座喜味1910-2
- 立地環境：県道6号線沿いで、近隣には公園や病院が立ち並び恵まれた環境にあります。
- 開設 平成29年7月1日
- 提供サービス 地域密着型ユニット型 29床
- 2階建て 9人～10人の3ユニット 全室個室
- 利用者数/29人 平均介護度／4.1
- 職員数 26人

外観



1階 エントランス

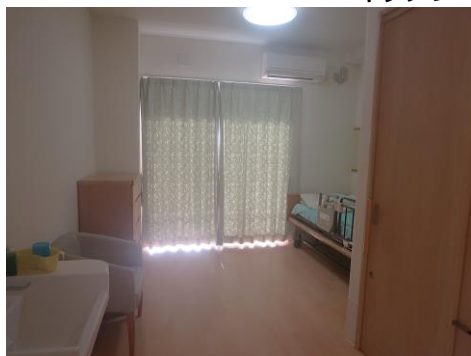


駄菓子屋

01 事業所概要



キッチン・食堂



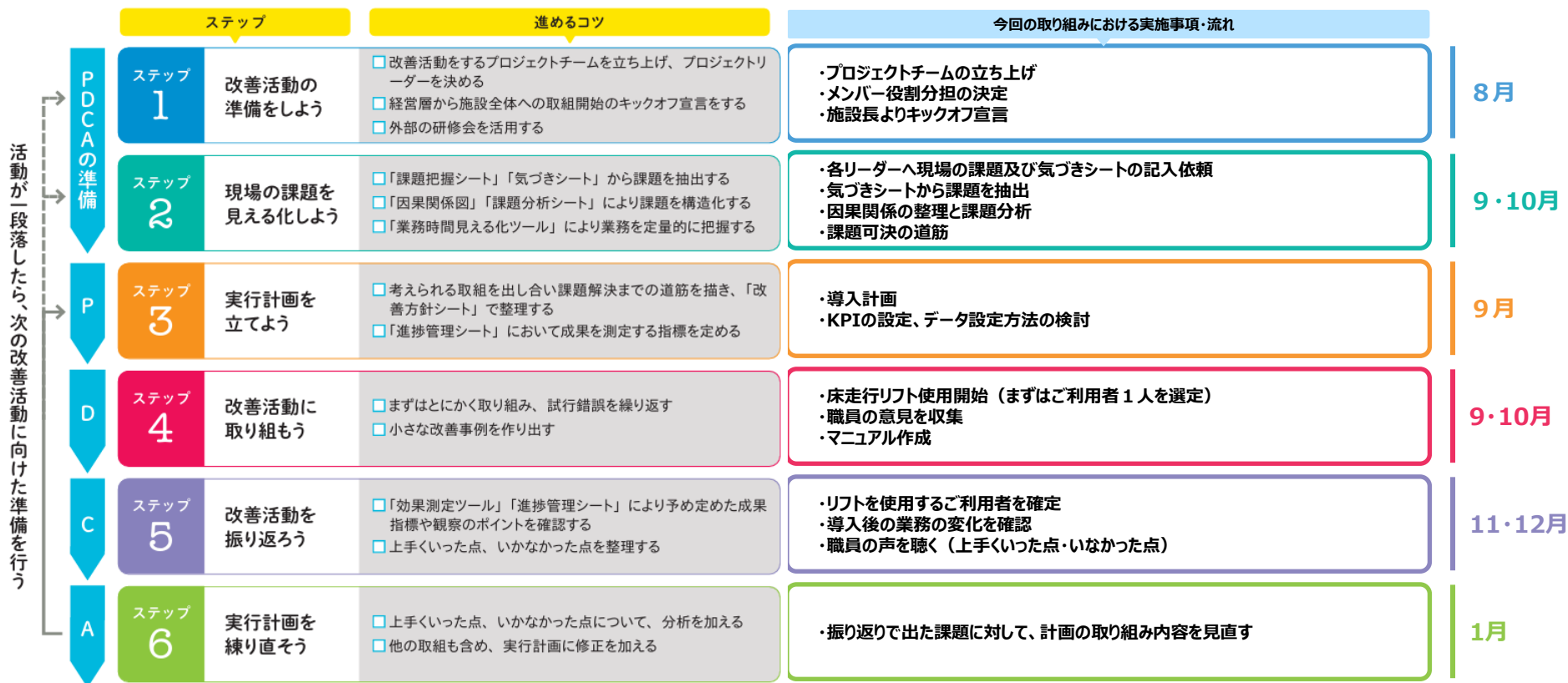
居室



1階テラス



02 取組概要・流れ



【手順1】改善活動の準備をしよう

プロジェクトチーム

職種・役職	プロジェクト上の役割
施設長	総括責任者
相談員	プロジェクトリーダー・議事録作成
ユニットリーダー	研修担当・マニュアル作成担当
看護師（訓練員）	リスク担当
看護師	リスク担当
管理栄養士	その他のサポート

プロジェクトメンバー選出のポイント

- 業務改善会議の参加メンバー
- 各ユニットのリーダーとして現場の声を直接聞いている
- それぞれの職種から視点が集まる

定期的集まっているメンバーであるため、働きやすい職場づくり、業務改善意欲がある。

【手順1】改善活動の準備をしよう

プロジェクトチームの立上げ経緯

施設長とプロジェクトリーダーがメンバーを選出



業務改善会議時にメンバーへ説明し役割分担を決定



業務改善プロジェクトチーム発足

毎月第2火曜日に開催

小さな気づきはその都度共有ファイルで情報共有

開催場所：談話コーナー

キックオフ宣言

- 業務改善会議の際に施設長からキックオフ宣言



- ✓ 人員不足があり、会議に参加するリーダーが夜勤明けで参加する事もあった。
- ✓ 参加出来なかったメンバーには議事録で情報共有した。

【手順2】現場の課題を見える化しよう

気づきシートの収集

- **気づきシート収集対象**
 - ユニットスタッフ
- **主な内容**
 - ・ 力量のバラツキ
 - ・ 業務統一されていない
 - ・ 精神的負担（急変時の不安等）
 - ・ 身体的負担

因果関係図



- ✓ ユニットリーダーにシート記入を依頼したが、ひとくくりの言葉で記入されていた。
- ✓ 内容を分かりやすく説明すべきであった。
- ✓ もっと小さいことも聞き取りが必要であった。

【手順2】現場の課題を見える化しよう

課題解決の道筋

深堀原因

2人介助者を1人で行っている 業務の統一がなされていない ことに対し

介護テクノロジー の種類/業務改善

移乗用支援機器、業務改善を行う ことにより

好転換された 深堀原因

2人介助者を1人で行う事が無くなる 業務が統一される こととなり

原因

腰痛 業務のバラツキが出る という問題が解消され

結果

身体的負担 力量のバラツキ がなくなり

悪影響

時間帯で人手不足 高年齢職員の負担 の改善が期待できる

【手順3】実行計画を立てよう

改善取組	具体的内容
職場環境の整備	業務の手順に合わせ、物品の活用や管理方法等を工夫する
業務の明確化と役割分担 業務全体の流れの再構築	業務において、ムリムラムダがないかを確認し、業務の手順を見直し、作業項目を再整理する
手順書の作成	職員によってやり方が異なる等、現場がバタバタしていると考えられる業務の洗い出しと整理を行う。職員全員が理解できるように、場面別、視覚的に分かりやすくする業務マニュアルを作成する。
記録・報告様式の工夫	記録、報告に関する業務において、ムリムラムダがないかを確認し作業項目を再確認する。
情報共有の工夫	直ぐにマニュアルを確認できるように、見やすい場所に掲示及びシステムで伝達する
OJTの仕組みづくり	新規職員に指導する内容を洗い出し、業務マニュアルへ反映する。OJTでも伝えられるようプロジェクトメンバーや教育担当の職員と業務マニュアル内容を検証する。
理念・行動指針の徹底	施設長から職員全体に対して今回の業務マニュアルの作成、改善活動を実施することでどのような施設を目指していくかを説明する

【手順3】実行計画を立てよう

成果指標の設定

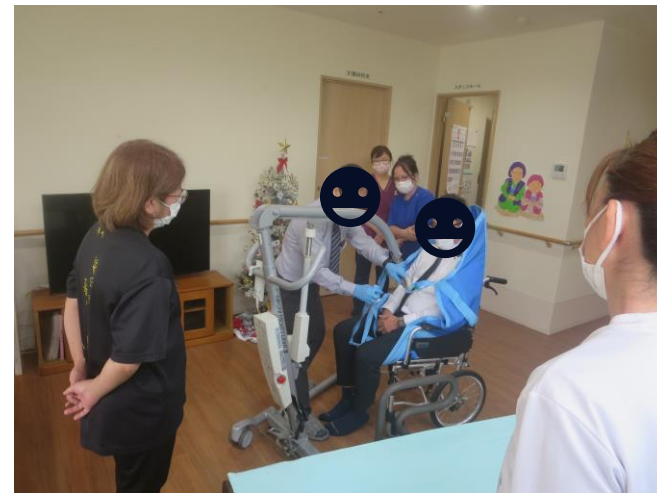
成果指標を設定する文節	設定した成果指標	成果指標の測定方法	測定期間・時期
職員が全員がリフト移乗方法を習得	リフト移乗方法の習得度合い	OJT評価	3ヶ月1回
リフト移乗を行う利用者を特定し活用	リフト移乗の活用度合い	活用チェック表	毎日（3ヶ月）
マニュアルの見直し	最新情報が配置されている	日付確認	年に1回
職場環境整備	必要な物が必要な所にある	実施する前と実施後の比較	3か月1回

- ✓ 業務改善を実施する際、職員が受け入れるのに時間を要した。
- ✓ 何度も説明し、まずは取り組んでから声を聴かせてほしいと話した。

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジー導入・業務改善取組の準備～

● 実施した内容

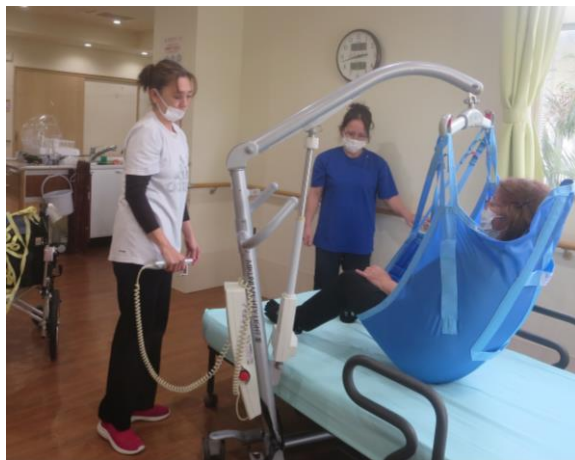
- 既存のベッドに対応できる床走行リフトがなかなかなかった。
→ **各業者に相談。**
- 来訪していただき、**ベッドの高さや走行幅、収納場所を確認。**
- 希望するリフトが見つかり、メーカーに見積を依頼。**デモの実施。**
- 使用前に**利用者や家族へ説明。**
- お試し期間2週間で**職員へ使用方法の研修**を開催。
- **腰痛や肩痛を抱える職員に対して、優先的に利用を開始。**



- ✓ 低床ベッドに対応できるリフトがなかなか見つからなかったが、ベッド購入先のメーカーに相談し対応してもらった。
- ✓ 職員へ使用方法の指導がなかなか進まなかった。 **職員も試しに乗り体感してもらった。**

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジー導入・業務改善取組の準備～

▼メーカーから直接使用方法の説明を受け、職員で試用



【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジーの活用に向けた準備内容の詳細～

手順書・マニュアルの作成

● 作成までの過程

使用開始時は、メーカーからいただいた説明書やマニュアルを見ながら使用していたが、分かりづらいと職員から声があった。

● 作成した内容

使用手順を写真に撮り、説明文を入れて流れを見えるようにした。

▼施設で作成したマニュアル

スリングシート装着方法 ～車椅子からベッド編～

① スリングシート中央底部

② シート足部を、

③ シート足部を、太もも底部から内腿に敷き込み、

④ 介護リフトのハンガーフックに、頭側
スリング→足側スリングの順で掛けます

⑤ ゆっくり上昇する。
車椅子やリフトとの接触事故に注意しま

⑥ ゆっくり下ろす。

※ベッドをギャッチアップして、吊られた姿勢に近い形状にすると、ご利用者の身体への負担を軽減できます。

- ✓ 写真は部分的にアップで撮って、細かなところを強調した。
- ✓ 1枚の用紙に説明が入るようにした。

【手順4】改善活動に取り組もう ～テクノロジーの活用～

テクノロジーの活用

- **導入するテクノロジーの製品名**

床走行式リフトマイティライトⅢ

- **機能**

移乗支援（非装着）

- **活用場面・時間帯**

ベッドから車椅子間 ベッドからストレッチャー間

ベッドからポータブルトイレ間

7時～20時

- **活用方法**

ご利用者の移乗介助用として



頑張ったこと・苦労したこと

✓ 使用方法の手順 ご利用者への声掛け

【手順4】改善活動に取り組もう ～業務改善の取組～

業務改善の取組

● 取組内容の詳細（流れ）

リフトを導入するきっかけでマニュアルの見直しやユニット内の環境整備を行った。

- ・介護技術基礎マニュアル、看護マニュアルの見直し
- ・感染対策マニュアル最新情報へ差し替え
- ・業務内容の見直し
- ・浴室（脱衣室）の整理整頓
- ・介護用品の倉庫内の整理整頓



- ✓ 日々の業務の中で整理整頓を進めてもらった。
- ✓ すべてのマニュアルを見直し、最新情報へ変更を行った。

【手順4】改善活動に取り組もう ～業務改善の取組～

浴室（脱衣室）



Before



After

【手順4】改善活動に取り組もう ～業務改善の取組～



Before

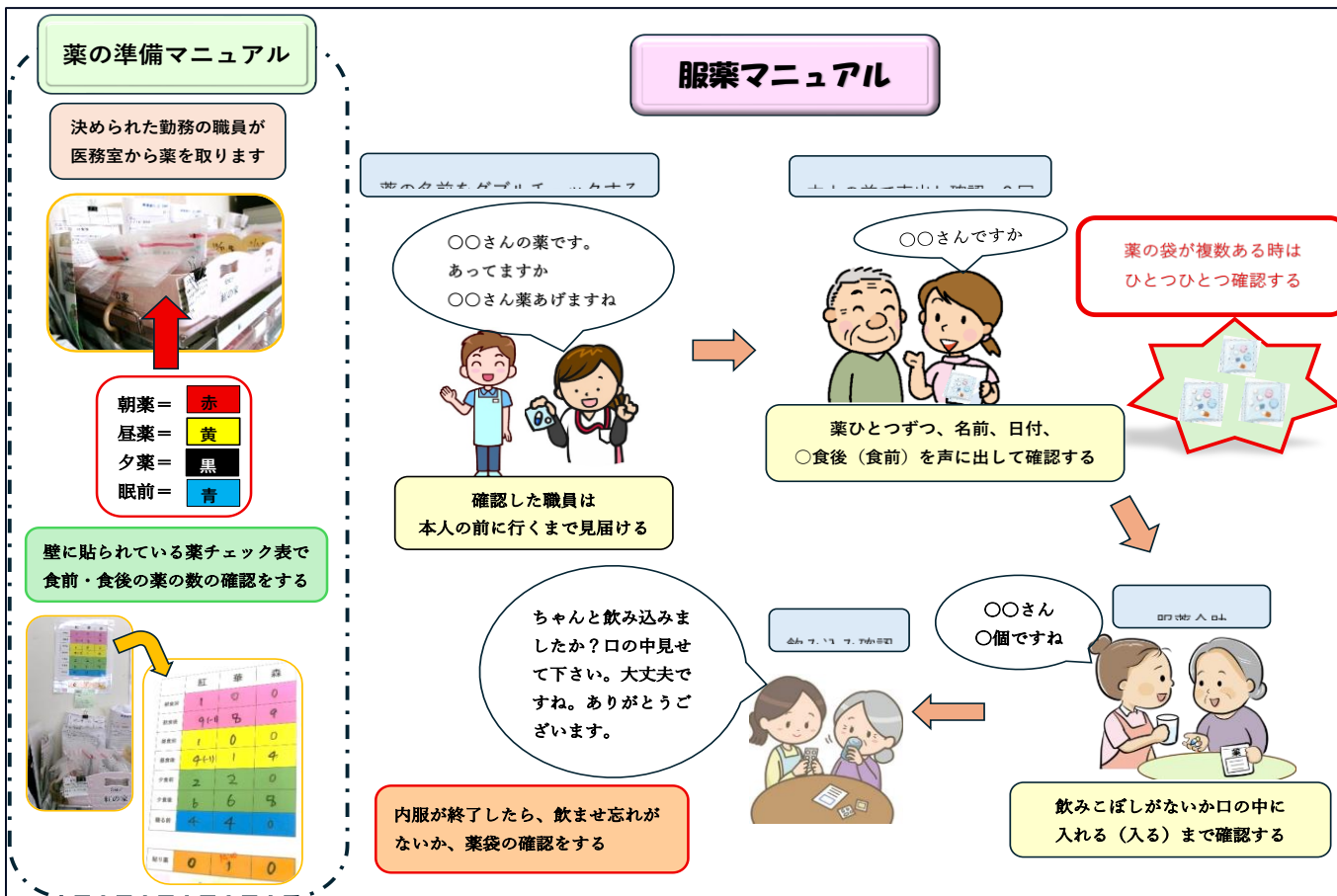
使用していないポータブルトイレやノロウイルス感染症対策の必要物品（ノロバケツ）、吸引器が奥の方に置かれていた。通路のカートを出さないと奥の物が取れなかった



After

すぐに取り出せるよう、ノロウイルス感染症対策の必要物品（ノロバケツ）、吸引器は手前に置き直した

誤薬予防

服薬までの流れを
見える化

【手順4】改善活動に取り組もう ～小さな改善事例の共有～

● 課題①

2人対応で移乗を行うご利用者がいる

対応①

- 体の大きなご利用者や立位が困難なご利用者は2人で対応していたが、中には一人で対応する職員がいた。リフトを導入したことで一人で対応することができ、もう1人の職員は他にご利用者の見守り等が出来るようになり良かったとの声が聞かれた。会議で情報共有した。

● 課題②

機器を取り扱うことに苦手意識を持つ職員がいる

対応②

- 写真を貼り付けたマニュアルを作成しリフトへ掛けておいた。
- OJTで指導を繰り返し行った。
- 職員本人にもリフトに乗ってもらい体感してもらった。
- 使用する時は側について見守った。
- セッティングは大変だけど、体が楽であることが実感できたとOJT評価で評価が出来た。

【手順4】改善活動に取り組もう ～小さな改善事例の共有～



2人介助での移乗の様子



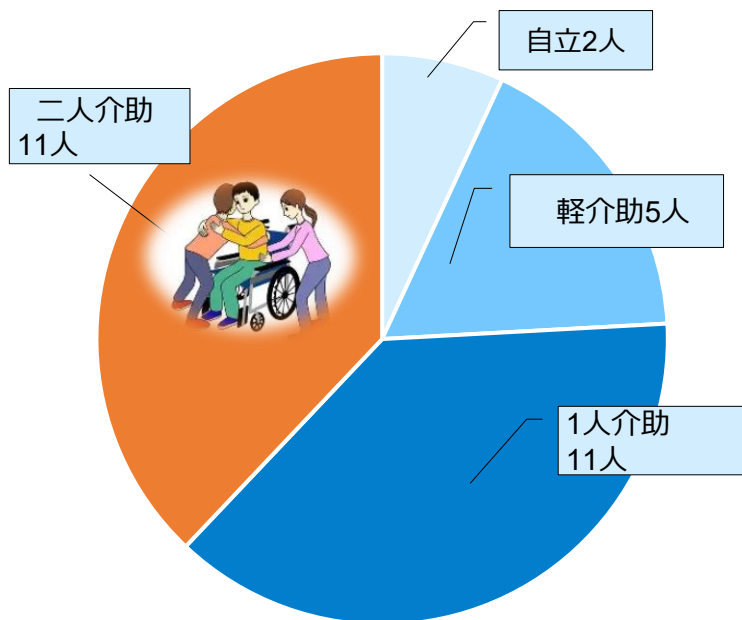
リフト活用により1人で移乗が行える

【手順5】改善活動を振り返ろう

設定した成果指標の結果

✓ 2人介助者全員にリフト利用に移行できた

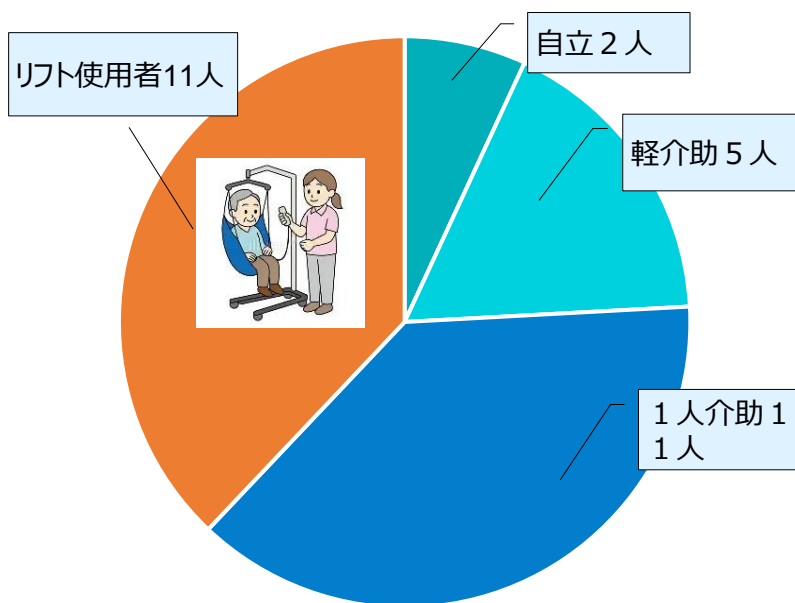
29人移乗介助



■ 自立 ■ 軽介助 ■ 1人介助 ■ 2人介助



29人移乗介助結果



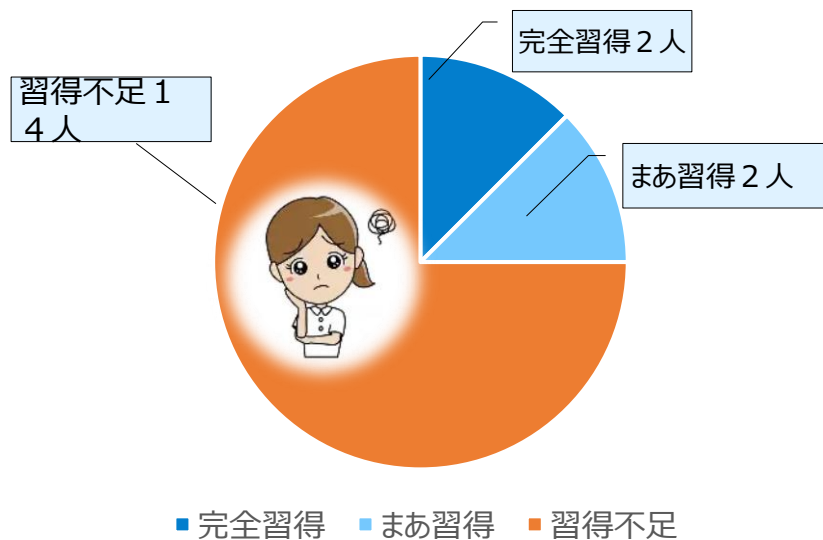
■ 自立 ■ 軽介助 ■ 1人介助 ■ リフト介助

【手順5】改善活動を振り返ろう

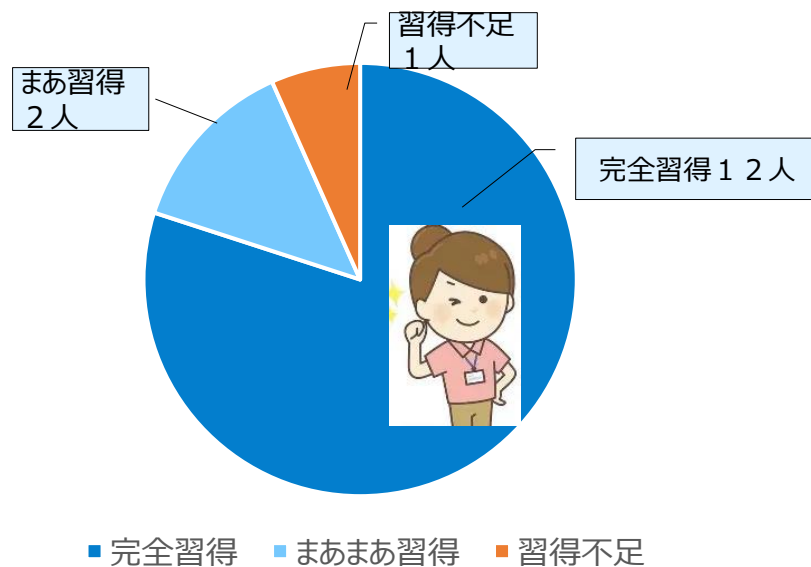
設定した成果指標の結果

✓ リフト操作完全習得 2人 → 12人になった

リフト導入時



3か月後のリフト習得状況



【手順6】実行計画を練り直そう

実行計画の練り直し

課題

- 二人介助が必要なご利用者をリフト利用に移行できたが、リフト操作に不安や苦手意識を持つ職員がまだいる。



● 課題に対する解決策

不安な部分を再度聞き取る
不安要素を解決する
使用する機会を増やす

● 計画書の見直し内容

OJT指導期間の延長

工夫

- ✓ 職員の「ご利用者を落としてしまったらどうしよう」という不安を受けとめ、焦らさずゆっくり習得できるように促した。

職員/利用者からのコメント

職員からのコメント

メリット

- ・身体**の負担が減った。**
- ・利用者**を安全に移乗出来る**（事故・怪我のリスク軽減）
- ・身体の不調（腰や膝の痛み等）がある職員とペアを組むが
お互い気を使わなくて済むようになった。
- ・ゆっくりとリフトで移乗することで、**利用者の身体**の負担も軽減****されている。（移乗の際に時々痛みを訴えていた利用者が痛みを訴えなくなった）
- ・移乗後の座り直しの手間が減った。

利用者からのコメント

I・Mさん

・ブランコみたいで楽しい。（それ以来、リフトを使用する時にはブランコに乗りましょうね）と声掛けしている。

N・Sさん

・気持ちいい

職員からのコメント

デメリット

- ・スリングの装着に時間がかかる
- ・**操作に慣れるまでが大変**
- ・慣れない職員は利用者が落下しないかと恐怖心があり心理的負担がある。
- ・記憶の維持が難しい利用者は、リフトを見て毎回不安になる
- ・車椅子からベッドへの移乗の際のスリングの装着が難しい。
- ・居室のスペースが限られている為、**少し使いづらい**
- ・スリングシートが簡単に洗えないため、**衛生管理が難しい**
- ・ベッドから車椅子への移乗の際に、座位姿勢が傾いてしまう。

職員からのコメント

リフトを使用して業務や身体的の変化

- ・腰や肩が痛い時も楽に移乗が出来る。
- ・時間はかかるが、腰への負担は減っている。
- ・全介助の方をリフトに切り替えることにより、腰、他身体への負担が軽減され腰痛予防になる。
- ・1人移乗出来る事により、他職員は他の業務に取り掛かることができ、効率化につながる。

取組のまとめ

管理者層（理事長・施設長）からのコメント

- 介護職員の高年齢が多く在籍しているため、日頃から身体への負担を心配していた。もっと早く導入出来ていたら良かったが、経営的に厳しい現状があった。
- 今回のプロジェクトチームが前向きな意見を出し合い、今よりもっと職場を良くしていこうという意欲が見られた。
- 今回、移乗用リフトを導入し活用状況を見て成果があったと感じている。
- 今後も現場に必要な介護テクノロジー導入を目指し身体的、精神的負担を軽減すると共に若い職員が興味を持って、入職してもらえる職場にしたいと考えています。

取組のまとめ

プロジェクトを通じて得た学び、感じたこと

- 研修に参加して、介護テクノロジー導入の手順（改善活動の準備・課題の見える化、計画、取り組み、振り返り、実行計画を再構築）、導入と活用の違い、「かえって手間が増えた」の正体はU字の法則など、必ず陥る流れであることを知って納得した。
- 研修で他のチームの原因、結果、悪影響はほぼ同じ課題を抱えていることが伺え、皆さんも頑張っていることで励みになった。
- 他事業所の成果報告会で介護テクノロジーの活用状況や業務改善について、とても参考になり、自施設でも取り入れたいと意欲が湧いた。

取組のまとめ

事業所としての今後の方針

- 今回、働きやすい職場づくり業務改善活動のプロジェクトチームとして介護支援専門員兼施設長、相談員、ユニットリーダー、看護師、管理栄養士が進めてきましたが、職員全体の声を拾い、それぞれの立場から意見を出してもらい、今後も継続して職場環境改善活動に取り組んで行きたい。

またご利用者が安心して快適な生活が送れ、職員の精神的、身体的負担の軽減の為の介護テクノロジー導入に向けて情報収取し、働きやすい職場づくりを目指して行きます。



ご清聴ありがとうございました

